











関西経済レポート (7月号)

-  5月の鉱工業生産指数は2カ月連続の前月比マイナス。6月の全国の生産が小幅増加であることを考慮しても、4-6月期の生産は3期ぶりの前期比マイナスの可能性が高い。
-  6月の貿易動向は輸出は28カ月連続で前年比増加、輸入は4カ月連続で減少。結果、貿易収支は4カ月連続の黒字。
-  6月の消費者態度指数、景気ウォッチャー現状判断DIはともに改善。インバウンド関連の需要が継続することなどから先行き判断も上昇している。
-  6月の大型小売店の販売額は、3カ月連続の前年比増加だが、伸びは微増にとどまった。
-  6月新設住宅着工戸数は前年比+19.2%と大幅増加、2カ月連続のプラス。分譲、マンションが主に貢献。
-  6月の有効求人倍率は前月比横ばい。新規求人倍率は小幅上昇した。失業率は前月から上昇し、3カ月連続の悪化となったが、新規求職の動きを反映した労働力人口の増加が背景にあり、労働市場は堅調である。
-  6月の公共工事請負金額は前年比+6.4%と2カ月ぶりのプラス。結果、4-6月期(季節調整値)は前期比+62.4%と4期ぶりのプラス。5月の建設工事は同+3.8%と3カ月連続のプラス。建設工事の伸びは、公共工事の増加を背景にやや改善。
-  2015年4-6月期の中国実質GDP成長率は前年同期比+7.0%と、前期から横ばいとなった。しかし、リコノミクス指数は減速傾向を示していることから中国経済の実態については楽観を許さない。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

～生産～

鋳工業指数の推移（近畿・2015年5月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における5月の鋳工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は100.9で前月比-1.2%と2カ月連続のマイナス、出荷は98.8で同-1.9%と4カ月連続の低下。一方、在庫は116.9で同+0.2%と2カ月連続の上昇となった。
- 業種別にみると、金属製品(同-14.8%)、はん用・生産用・業務用機械(同-4.4%)、輸送機械工業(同-7.5%)等が減産となった。一方、電気機械(同+10.4%)、情報通信機械(同+11.3%)、窯業・土石製品(同+4.0%)等は増産となった。
- 結果、4-5月平均を1-3月期平均と比較すれば、関西の生産は-5.7%低い水準となった。6月の全国の生産が小幅増加であることを考慮しても、4-6月期の生産は3期ぶりの前期比マイナスの可能性が高い。

鋳工業指数の推移（全国・2015年6月まで）、2010年=100

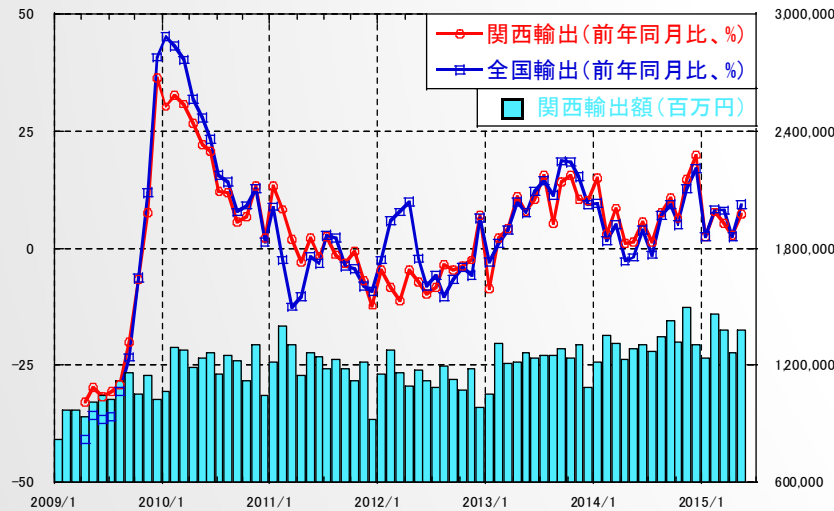


(出所) 経済産業省「鋳工業指数」

- 全国における6月の鋳工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.0となり前月比+0.8%、出荷は96.3で同+0.3%、在庫は114.4で同+1.3%といずれも2カ月ぶりの上昇。結果、4-6月期の生産指数は前期比-1.5%低下し、3期ぶりのマイナス。
- 業種別にみると、輸送機械(同+2.4%)、化学(除. 医薬品)(同+2.8%)、プラスチック製品(同+3.6%)等が増産となった。一方、電子部品・デバイス(同-2.1%)、石油・石炭製品(同-5.0%)、電気機械(同-1.2%)等は減産となった。
- 製造工業生産予測調査では7月は前月比+0.5%、8月は同+2.7%と増産の予定である。

～輸出入～

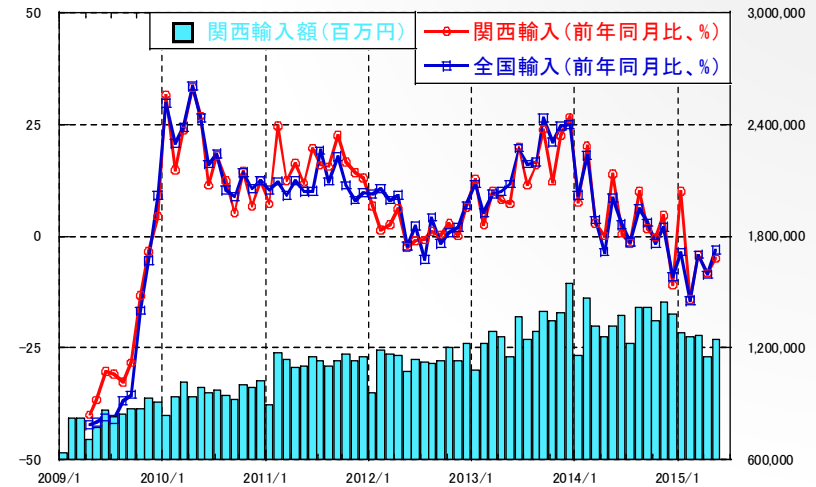
輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2015年6月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西6月の輸出額(速報値)は1兆3,832億円、前年同月比+7.3%と28カ月連続の増加。
- 輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、船舶であった。一方、有機化合物、鉱物性燃料は減少となった。
- 全国6月の輸出額(確報値)は6兆5,057億円となり、前年同月比+9.5%と10カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、ポンプ・遠心分離機等の輸出が増加した。
- なお、6月の為替レート(税関長公示レートベース)は123.06円と前年同月比-20.7%の円安であった。

輸入動向 (右：輸入額、左：前年同月比) (2015年6月まで)

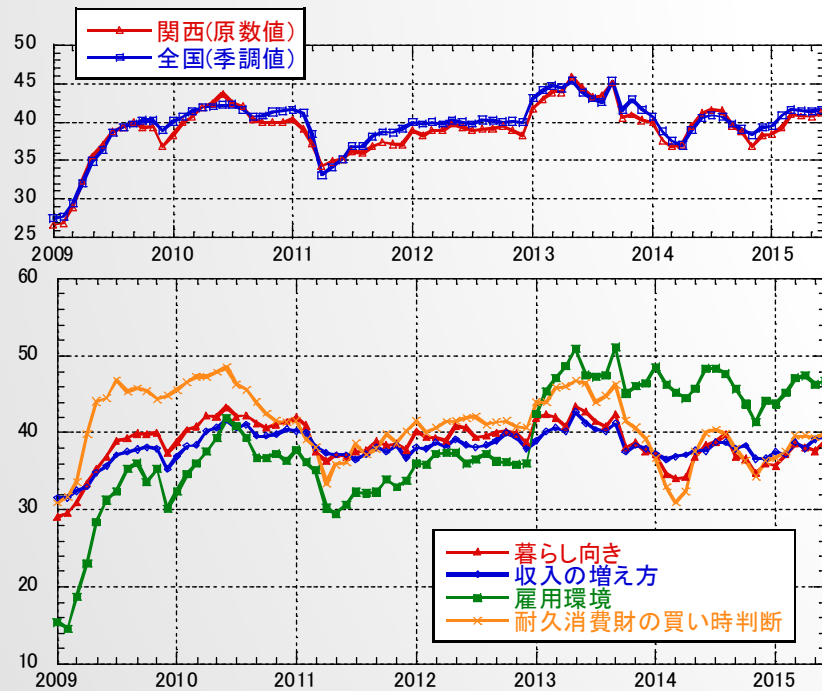


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西6月の輸入額(速報値)は1兆2,476億円、伸びは前年同月比-4.9%と4カ月連続の減少。
- 財別に見れば、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が減少した。医薬品(単月過去最高額)、魚介類及び同調製品等は増加した。
- 全国6月の輸入額(速報値)は6兆5,762億円、前年同月比-2.9%と6カ月連続の減少。財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支(速報値)は+1,357億円と4カ月連続の黒字となり、前年同月から1,593億円の改善。全国の貿易収支(確速値)は-705億円と3カ月連続の赤字だが、赤字幅は前年同月から-91.5%縮小した。

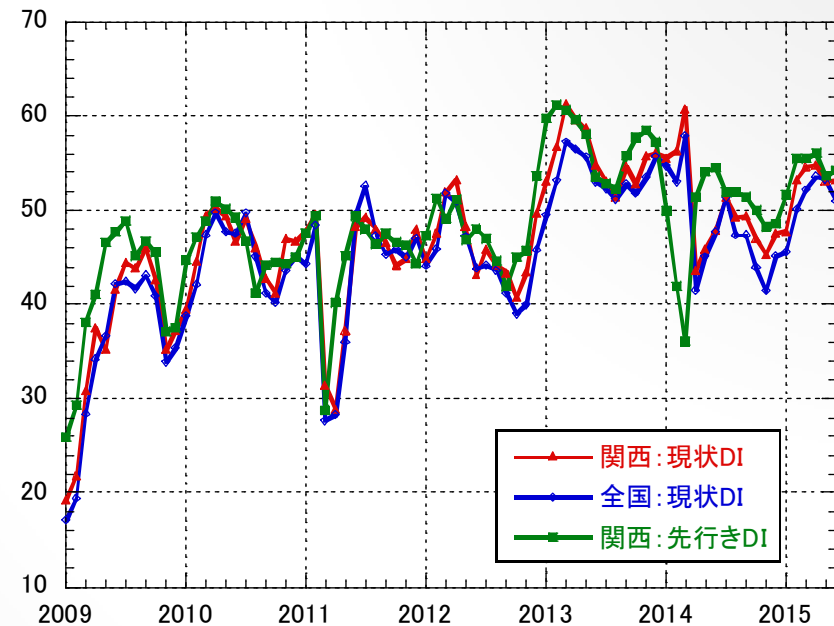
～消費者センチメント～

消費者態度指数(2015年6月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(2015年6月まで)



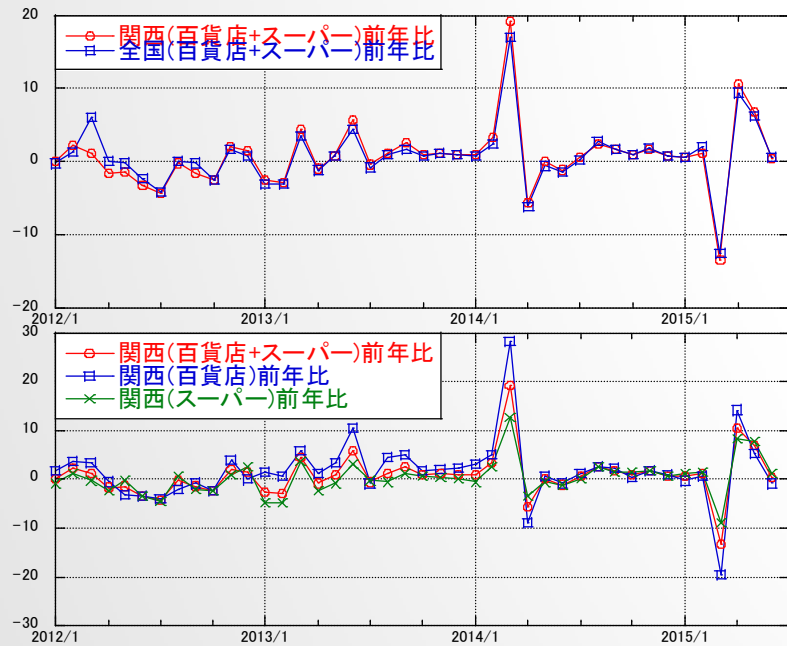
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の6月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.5ポイントの41.2と、3カ月ぶりのプラス。全国(季節調整値)でも同+0.3ポイントの41.7とこちらも3カ月ぶりのプラスとなった。改善が小幅であったことから、内閣府は消費者心理の基調判断を据え置いた。
- 関西で同指数の構成項目をみると、6月は4つの構成指標全てが前月から改善した。「暮らし向き」は同+1.2ポイントで3カ月ぶりの上昇、「雇用環境」は同+0.5ポイントと2カ月ぶりの上昇、「収入の増え方」は同+0.2ポイントで2カ月連続の上昇、「耐久消費財の買い時判断」は同+0.4ポイントと2カ月ぶりの上昇となった。

- 関西の6月の現状判断DIは前月比+0.2ポイント小幅上昇し53.3となり、2カ月ぶりに上昇した。円安に伴うコストの上昇が続いているものの、インバウンド関連の好調が続いており、また今夏のボーナス支給額が前年を上回ったことも上昇に寄与した。一方、全国は同-2.3ポイント下落し51.0となり2カ月連続の悪化。
- 先行き判断DIは、関西では54.2と前月比+0.5ポイント上昇。円安による物価上昇や原材料コスト増に対する不安はあるものの、インバウンド関連の需要の継続と、今後自治体で販売が開始されるプレミアム商品券への期待が見通しを上昇させているとみられる。

～個人消費・住宅～

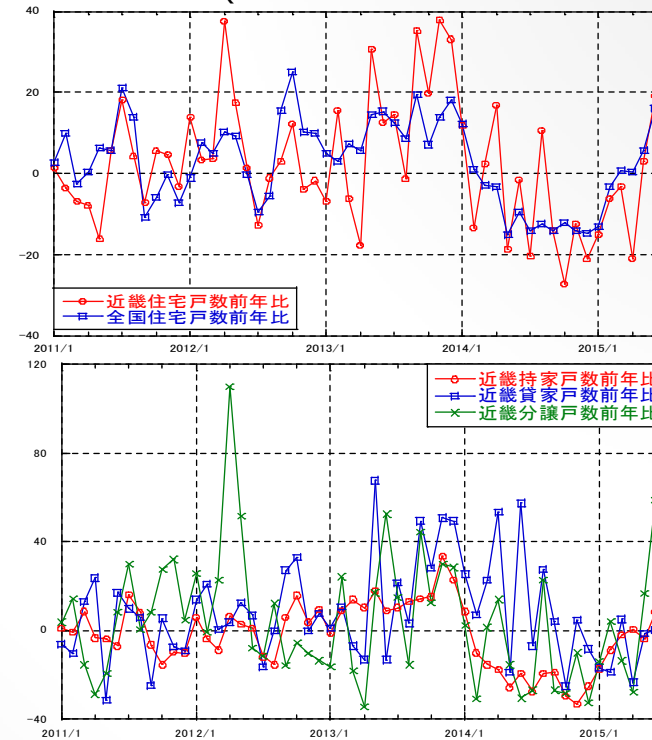
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年6月まで）



(注) 福井県を含む。
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西6月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.4%小幅増加し、3カ月連続のプラス。
- 百貨店は同-0.8%減少し、3カ月ぶりのマイナス。
- スーパーは同+1.2%と3カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(6月、全店ベース)は同+0.6%と3カ月連続のプラス。
- 消費は関西、全国とも6月は微増にとどまった。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年6月まで)

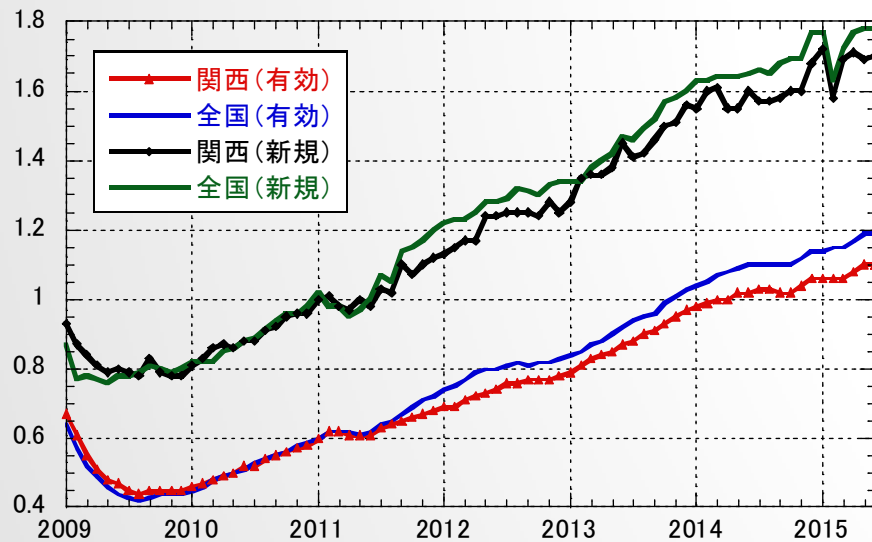


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西6月の新設住宅着工戸数は14,330戸。前年同月比+19.2%大幅増加し、2カ月連続のプラスとなった。
- 全国は88,118戸、同+16.3%大幅増加し4カ月連続のプラス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,148戸。同+8.6%と2カ月ぶりの増加。貸家は5,634戸、同+0.5%と3カ月ぶりの小幅プラス。分譲は5,520戸、同+58.8%と大幅増加し、2カ月連続のプラス。
- 6月の関西マンション契約率は71.8%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を4カ月連続で上回っている。首都圏は75.4%(季節調整値、APIR推計)となった。
- 住宅着工は大幅増加。主に、分譲・マンションの増加が貢献している。

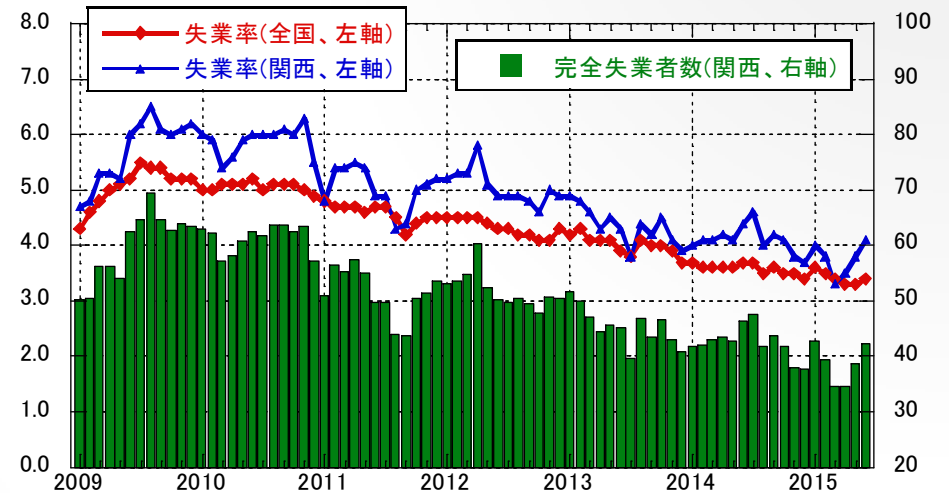
～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年6月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年6月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年5月)

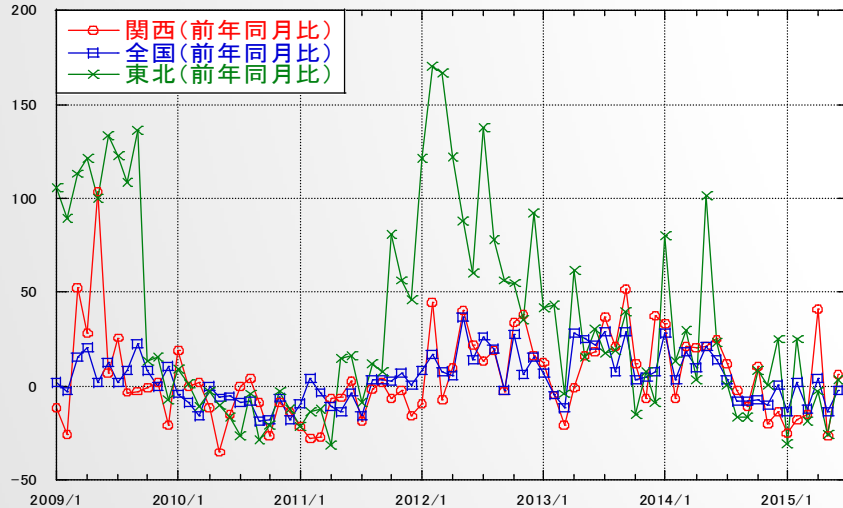
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
6月	1.19	1.10	1.06	1.13	1.19	0.96	1.02	1.04
5月	1.19	1.10	1.07	1.12	1.20	0.97	0.98	1.06

- 6月の関西の有効求人倍率は、1.10倍となり前月比横ばい。2カ月連続の1.10倍台で、高水準が続いている。全国も1.19倍と前月比横ばいだが高水準。
- 府県別では、奈良県で同+0.04ポイント上昇し1.02倍となり、1991年10月(1.00倍)以来の1倍台を回復した。次に京都府では同+0.01ポイント上昇し1.13倍。一方、滋賀県、大阪府、兵庫県、和歌山県では低下した。
- 6月の関西の新規求人倍率は、1.70倍と前月比+0.01ポイントの小幅上昇。全国は1.78倍と同横ばいであった。
- 大阪の産業別新規求人数は、生活関連サービス業で前年同月比+20.6%と大幅に伸びた。その他は運輸業・郵便業、医療・福祉、製造業などで増加した。

- 6月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.1%で前月(3.8%)から0.3%ポイント上昇し、3カ月連続の悪化。しかし、労働力人口(季節調整値)が増加していることから、職探しの動きを反映したものとみられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は42.2万人で前月(38.6万人)から3.6万人増加した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%と前月から0.1%ポイント上昇した。求職理由別にみると、新たに求職を行った人が増加しており、労働市場への参入が進んでいる。雇用情勢は引き続き堅調である。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)をみると、73.5%となり、前年同月比+0.6%ポイント上昇。昨年の後半から高水準が続いている。また、女性の就業者数(季節調整値)は2,772万人となり、過去最高となった。

～公共投資～

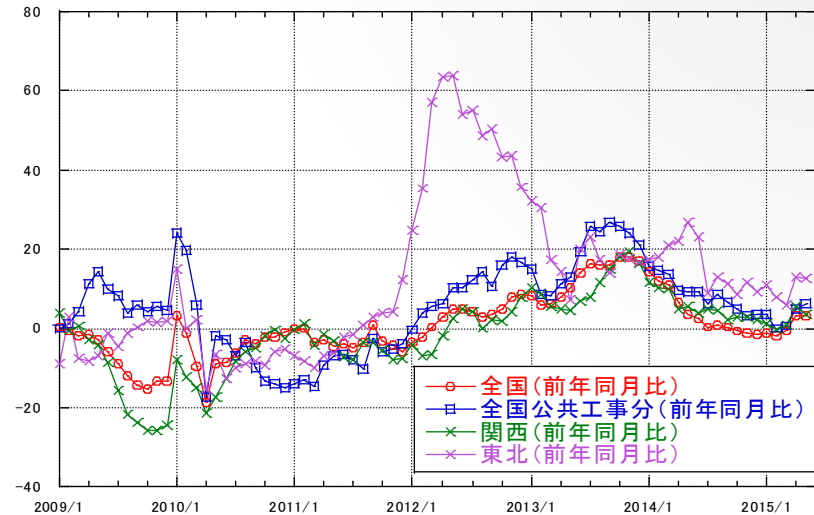
公共工事請負額(前年同月比：％、2015年6月まで)



(注) 福井県を含む。
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西6月の公共工事請負金額は2,004億円、前年同月比+6.4%と2カ月ぶりのプラス。
- 全国は1兆5,564億円で同-1.8%と2カ月連続のマイナス。
- 東北は2,829億円で同+3.7%増加し、4カ月ぶりのプラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月ぶりに前月から増加となった(関西：同+47.1%、全国：同+1.8%)。
- 関西の公共工事請負金額(季節調整値)の伸びは、4-6月期は前期比+62.4%と4期ぶりのプラス。

建設工事(前年同月比：％、2015年5月まで)

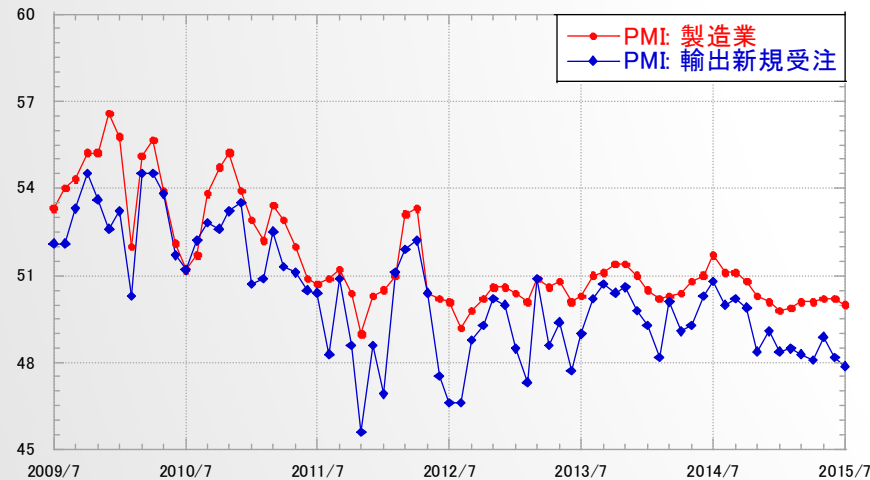


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西5月の建設工事は4,675億円、前年同月比+3.8%と3カ月連続のプラス。
- 東北は4,945億円、同+12.6%と46カ月連続の増加。
- 全国は3兆5,494億円となり、同+3.3%と2カ月連続のプラス。
- うち、全国の公共工事は同+6.4%増の1兆3,839億円となった。伸びは40カ月連続の増加。増加幅はこの2カ月加速してきている。
- 建設工事は、公共工事の増加を背景に、やや改善。

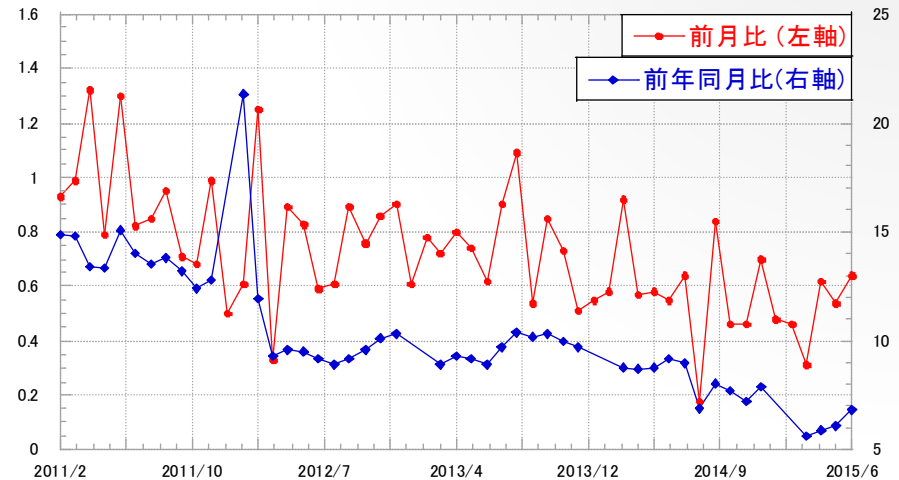
～中国経済動向①～

製造業購買担当者景況指数 (2015年7月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

工業生産指数(2015年6月まで：%)



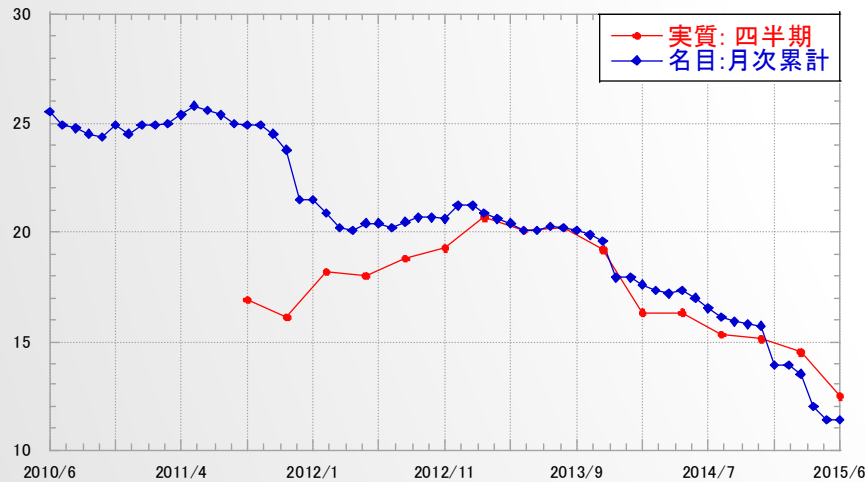
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 7月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、6カ月ぶりの前月比マイナス(-0.2ポイント)の50.0となった。好不況判断の境目となる50をкаろうじて維持した。
- うち、生産指数は前月比-0.5ポイント低下(5カ月ぶりのマイナス)の52.4となった。新規受注指数は2カ月連続の同マイナス(-0.2ポイント)の49.9。2012年9月以降初めて50を下回った。また、輸出新規受注指数は同-0.3ポイントの47.9となり、2カ月連続のマイナス。10カ月連続で50を下回っている。雇用指数は48.0となり、同-0.1ポイント低下し2カ月連続マイナス。2012年6月以来、38カ月連続で50を下回っている。

- 6月の工業生産は前月比+0.64%上昇し、前月から+0.10%ポイント加速した。前年同月比は+6.8%となり、伸びは前月より+0.7%ポイント上昇したが、昨年通年の伸び(+8.2%)を下回る状況が続いている。
- 産業別に見ると、有色金属圧延加工業(前年同月比+11.7%)、化学原料・化学製品製造業(同+9.5%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+9.4%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+9.2%)等が高い伸びを示す一方で、電力・熱力生産・供給業(同+1.4%)、通用設備製造業(同+4.0%)、専用設備製造業(同+4.9%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

～中国経済動向②～

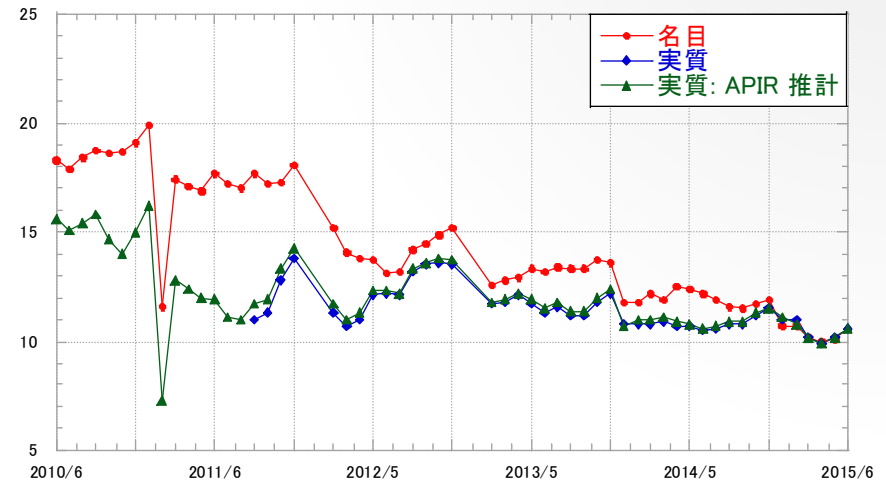
固定資産投資 (2015年6月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 1-6月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+11.4%と1-5月期(同+11.4%)から横ばい、2014年6月をピークに減速トレンドにある。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+27.8%(1-5月期:+27.8%)、第2次産業は同+9.3%(1-5月期:+9.6%)、第3次産業は同+12.4%(1-5月期:+12.1%)となった。

社会消費品小売総額 (2015年6月まで：%)

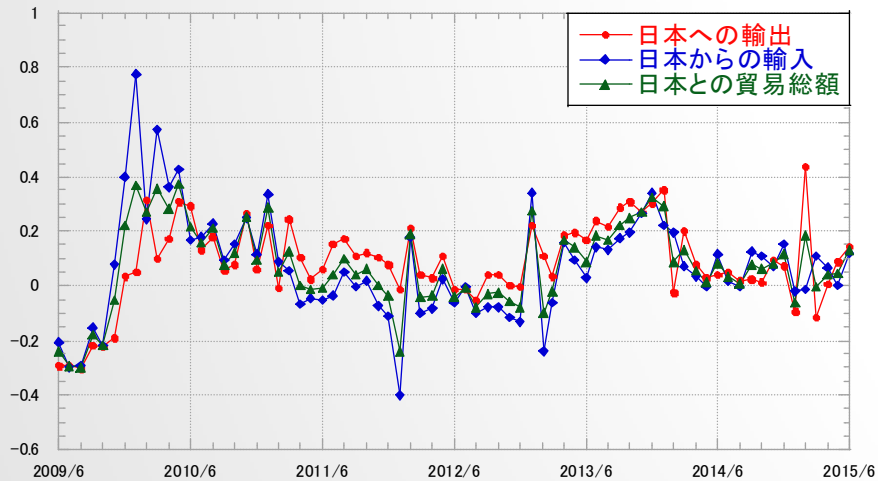


(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 6月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.6%と前月(同+10.1%)より+0.5%ポイント幾分上昇した。2カ月連続の上昇だが、昨年通年の伸び(+12.0%)を下回る状況が続いている。

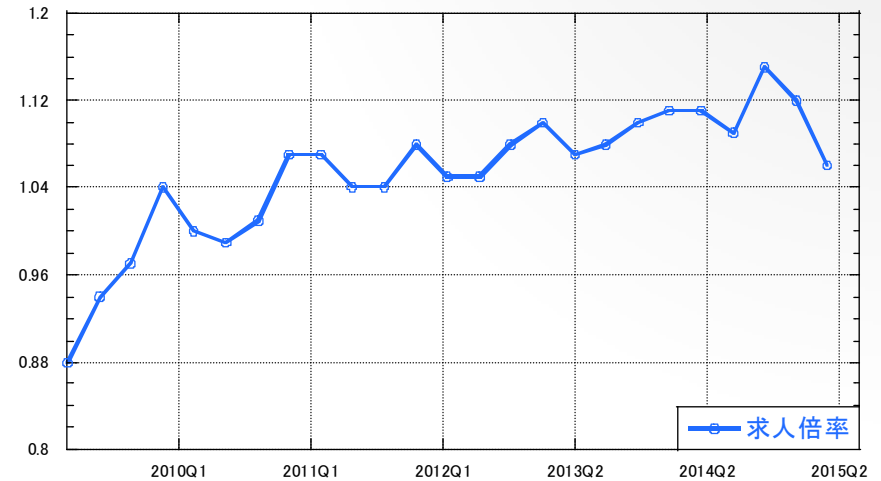
～中国経済動向③～

日本との貿易 (前年同月比：円ベース)(2015年6月まで：%)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

求人倍率 (2015年6月まで：都市ベース)

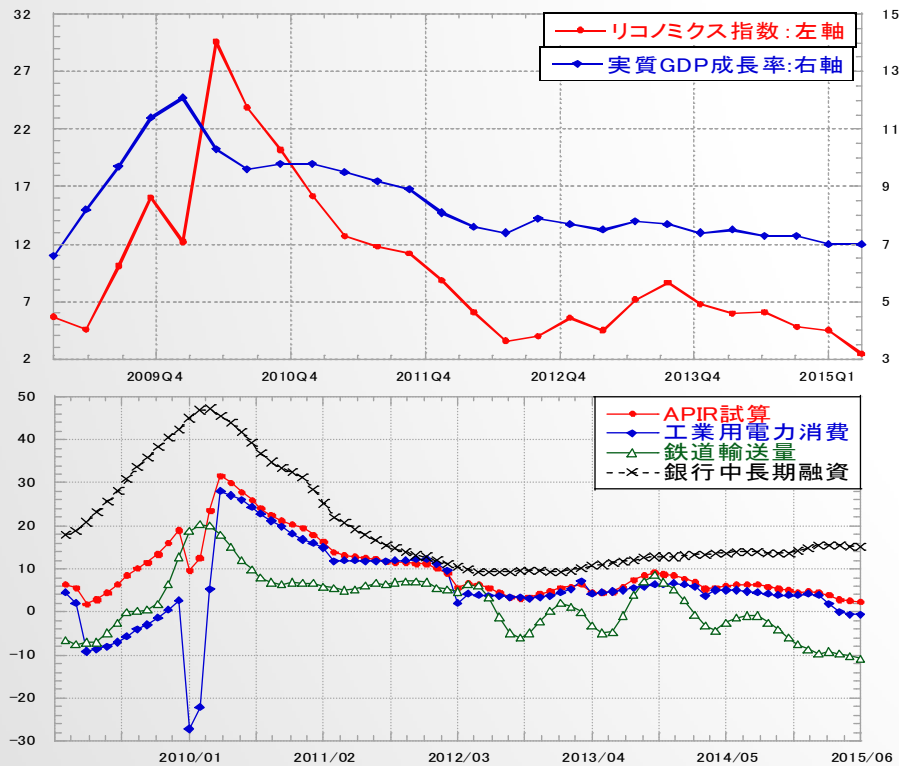


(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEICデータベース

- 6月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+2.8%となり、4カ月ぶりにプラスに転じた。輸入額は同-6.3%(速報値)となり、前月(同-17.8%)より減少幅が縮小したが、8カ月連続のマイナス。
- うち、日本への輸出額は同-6.0%、4カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-7.6%となり、前月(同-15.6%)からマイナス幅は縮小したが、8カ月連続のマイナス。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+14.0%となり、3カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+12.1%となり、4カ月連続のプラス。
- 4-6月期の有効求人倍率は1.06倍となり、1-3月期(1.12倍)より-0.06ポイント低下した。2期連続の悪化。求人倍率を地域別で見ると、東部は1.03倍(1-3月期1.09倍)と2期連続の悪化、中部も1.11倍(同1.14倍)2期連続の悪化、西部は1.08倍(同1.16倍)3期連続の悪化となった。各地域で雇用情勢の悪化がみられる。

～中国経済動向④～

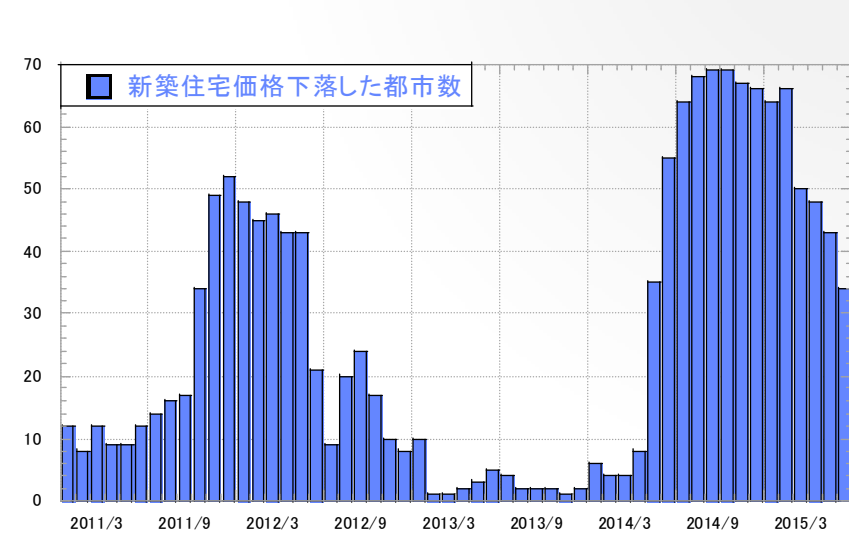
APIR試算のリコノミクス指数と実質GDP成長率の推移



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

- 2015年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.0%と、前期から横ばい。しかし、景気の動向を示すと言われるリコノミクス指数(APIR試算)からは減速の傾向が読み取れる。11年1-3月期～15年4-6月期の標本期間で、リコノミクス指標とGDP成長率は0.93と高い相関を示している。このことから、中国経済の実態は決して楽観視できない。
- リコノミクス指数の内訳をみると、銀行中長期融資は幾分上昇傾向を維持しているが、工業用電力消費量は2015年4月から、鉄道輸送量は14年2月から17カ月連続のマイナスである。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年6月まで: 都市数)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEICデータベース; APIR計算

- 不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、6月は34都市で前月から下落した。27都市で同上昇、9都市で同横ばいとなった。下落した都市の数は4カ月連続の減少であるが、住宅市場は低迷している。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。